
異世界ナ日々

SIBA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界ナ日々

【Nコード】

N8836G

【作者名】

SIBA

【あらすじ】

目を開けたらそこは荒野だった。「なんだこりやあああああ
こんな感じで始まる物語。どうするか・・・未定。恋愛要素は・・・
未定。面白いの?・・・不明。作者どんな・・・馬鹿。目標どんな
・・・完結。という感じに進めていきます。

プロローグ（前書き）

激しく駄文です。

それでも良いという天使の様な御心の読者様は先にお進みください。

プロローグ

目を開けたらそこは荒野だった。

「なんだこりやああああああ」

大声があたりに、木霊するほどの叫びをあげた

（落ち着け俺、これはなんかの間違いだ）

とりあえず目を閉じてみる・・・

数十秒経ったところに目を開けて見るとそこには・・・

「なぜだああああああ」

やはり荒野だった。

（アレだ、とりあえず、どうしてこうなったか原因を思い出そう）
たしか朝起きて、飯食って、日曜だから部屋でだらだらしてて・・・
そこからどうしたんだっけ・・・そうだ友達に誘われて、釣りに行くこ
うとして、準備して外に出たら目の前が真っ暗になったんだ。

（それが何でこんなところにいる！とりあえず荷物だ。バックの中に
携帯があったはず！）

辺りを見回すと、大きめの登山バッグと釣り竿が落ちていた。

「たすかったー」

驚喜の声をあげると、バックをあさり携帯電話を取り出し、携帯電
話を開くと・・・

圏外だった。

「くそったれー」

本日三度目となる叫びをあげるとその場に崩れ落ちるのだった。

プロローグ（後書き）

勢いで書き始めました。

ご指摘、感想お待ちしております。

プロローグ2（前書き）

うんへたくそです

プロローグ2

「いつまでもこうしてても仕方ないかあ」

青年は起き上がるときよろきよろとあたりを見回した。

「360°。視認できる限り建物、人影はなしか」

青年は溜息をつくとバックを開き、中身を一つずつ取り出していく。

「あるのはサバイバルナイフがひとつ、ツールナイフがひとつ、釣り錘と釣り糸と釣り針が一式、お茶1リットルに携帯食糧が3食分、あと折りたたみ傘だけか。」

地面の上に広げた荷物を確認すると、サバイバルナイフ以外を再びカバンに戻していく。

（用心は必要だよな）

ベルトにナイフを通すし、再び周りを見渡す。

「岩が動いてる」

青年から5メートルほど離れた所にある1メートルほどの大きさの岩が、青年に向かいズリズリと引きずられる様に動いていた。

「俺、目がおかしくなったか？」

青年が目を擦りながらつぶやく、その間も動く岩は青年に向かい近づいていた。

青年もひとしきり目を擦った後、恐る恐る岩に近づいていき

青年と動く岩との距離が1メートルをきった瞬間、岩の前半分が二つに割れた。割れた岩のなかは尖った歯のような物が生えた口のような状態だった。色も口と同じく真赤だ。

「は？」

青年が気の抜けたような声をだし呆然としてみると、岩の割れ目の奥から触手のような真つ赤な舌らしきものが青年の両足に巻きつき、強い力で引っ張りこんでいく。

「うぶっ」

青年は情けない声をだし尻もちをつき少しづつ岩の割れ目に引きず

られていく。

「く、く、くわれるー」

このとき本日4回目の叫び声をあげるのだった。

プロローグ2（後書き）

いまだに主人公の名前が出てこない。
決まってるわけではないんですよ？

プロローグ 3

「食われるうう、離せアホオオ」

青年は、動く岩の舌らしきものを必死に叩きながら脱出を図っていた。

しかしその行為は無上にも意味をなさず徐々に口らしき裂け目に引きずられていた。

（そうだ、ナイフあれば）

急いで腰のナイフを鞘から抜き放ち、触手のような舌に切りつける。

「うああああああ」

青年は、狂ったように叫びながらナイフを触手のような舌に切りつけ続けた。

ブオオオオオオオ

動く岩が汽笛のような声を発すると、触手のような舌が解け、割れ目に戻り、割れ目が閉じると来た方向へと近づいてきた時より幾分か速い速度で移動を始めた。

（逃げたのか？）

青年はナイフを握ったまま呆然と立ち尽くすのであった。

青年は歩いていた。あの場所に留まるのは危険と判断し荷物をまと

めとりあえずまっすぐ歩き続けた。

（さっきの岩もどき何だったんだろ。あんな動物知らんし。いきなり荒野にいたことあの岩もどきから推察するにここは地球じゃない？）

そんなことを考えながら歩いていると大きな川の近くに行き着いた。

「あれは」

青年が上流のほうに目を向けるとそこには焚き火らしき煙が上がっていた。

青年は煙を確認するとすぐさま煙に向かい駆け出した。

（人がいるかも、そうすれば全部わかるんだ。ここがどこなのか、どうしてここにきたのかもわかるかもしれない。）

そんな思いを秘めて青年ははしるのであった。

プロローグ3（後書き）

やっとプロローグが終了です。

次話でやっと主人公の名前がわかるかも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8836g/>

異世界ナ日々

2010年10月10日05時15分発行